

TAKE
FREE

地方独立行政法人
三重県立総合医療センター
MIE PREFECTURAL GENERAL MEDICAL CENTER

vol.88
2022 年 冬号

医療センターニュース



特集／リハビリテーション室

患者さんの早期離床・
社会復帰をめざすリハビリテーション

event

第14回 三重県立総合医療センター
がん市民公開講座



特集

リハビリテーション室

当院では、急性期における早期離床・社会復帰をめざし、リハビリテーション（以下、「リハビリ」という。）を行っています。リハビリは主に理学療法・作業療法・言語療法の分野があり、近年ニーズが高まっています。

今回は、このリハビリを担う彼らの仕事を紹介します。



室長 山本幸二

当院のリハビリ

リハビリと聞くと、骨折等怪我から復帰するための治療というイメージが強かったようですが、現在は特に心臓や呼吸器疾患で入院された患者さんへのリハビリのニーズが高まっています。

一般的に、入院となった場合は体力の低下による活動レベルの低下は避けられず、精神面にも影響を及ぼすことがあります。しかし、リハビリを行うことで、体力の低下を緩やかにすることができます。

また、当院のICU（※）においては、入室後48時間以内にリハビリに取り組み始めます。これは、早期に体位変換やリハビリを行うことで、長期的な臥床により発症するせん妄（※）や肺炎の予防となるだけでなく、ADL（※）の低下の防止にもなるからです。このような取組により、早期離床・社会復帰に結びつく等さまざまな効果が期待できます。

当院のリハビリは、経験を積んだリハビリスタッフだけでなく、医師や看護師、栄養士等たくさんの職種が連携し、少しでも早い患者さんの社会復帰を願い、笑顔でのサポートを心がけています。患者さんも積極的かつ自主的にリハビリに取り組んでいただけたらと思います。

※ICU…集中治療室

※せん妄…一時的に意識障害や認知機能が下がる状態

※ADL…日常生活動作

リハビリテーション室スタッフの学会認定資格等

呼吸療法認定士	5名
NST（※）専門療法士	1名
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	1名
心臓リハビリテーション指導士	1名
社会福祉士	1名
福祉住環境コーディネーター2級	2名
認定理学療法士（運動器）	3名
認定理学療法士（呼吸）	1名
がんリハビリテーション研修修了者	12名

※NST…栄養サポートチーム

職員構成

理学療法士	8名
作業療法士	3名
言語聴覚士	2名

令和4年2月1日時点



社会復帰をめざすリハビリテーション



理学療法士 内田智之

当院における3職種の役割

理学療法とは

主に病気やけが、手術等により運動機能が低下した状態にある患者さんに対して、歩行やADL能力の回復を目的として、可動域訓練や筋力強化訓練等の運動療法を実施しています。

作業療法とは

病気やけが等でADLが困難になった患者さんに対して、手指を用いての作業訓練等によりご本人が少しでも生活しやすくなるよう取り組んでいます。そしてご本人がやりたいことができるように支援・訓練を実施しています。

言語療法とは

“人とコミュニケーションを取ること”、“食べること”は、人が生きていく上でとても大切な部分を占めています。しかしながら、病気やケガ等のためにそれらの機能が損なわれることがあります。言語聴覚士は、コミュニケーションが困難になった患者さんや食べ物がうまく摂れなくなった患者さんに対して、言葉を話す、聴く、読む、書く等の検査や訓練、発声・発語の訓練、摂食・嚥下の訓練を行なっています。

◆運動器リハビリテーション

変形性関節症術後や骨折術後の患者さんに対し、関節の可動域の拡大を図り・筋力の回復を援助し、歩行やADLが円滑に行えるように術後早期より介入します。当院では3名の運動器認定理学療法士がおり、そのメンバーが中心となり、股関節や膝や肩等の関節可動域(曲げ伸ばし等)、弱くなった筋力強化訓練、歩行訓練を実施しています。

◆脳血管リハビリテーション

脳梗塞、脳出血等発症後の患者さんに対して、麻痺された上下肢の運動機能を促したり、平行棒等での歩行訓練、話すことや食べる等の訓練を早期から実施します。

また当院は脊椎脊髄外科を有しており、頸椎症や脊柱管狭窄症の術後の方にも積極的に介入しています。

◆呼吸器リハビリテーション

北勢呼吸器センターを有しており、呼吸療法認定士の資格を有するスタッフが中心となって、肺炎等で臥床を強いられた患者さんに対し、主治医と連携して、早期からサチュレーションモニターを用いての歩行訓練や呼吸に必要な筋肉の強化等の運動療法を実施し機能の改善を図っています。

◆心大血管疾患リハビリテーション

急性心筋梗塞や狭心症、開心術後の患者さんに対し、再発・再入院防止のため心電図モニターを装着しての歩行訓練や自転車エルゴメーター等の運動療法等を実施し運動療法を実施し体力・機能改善を図るとともに、動脈硬化や心不全の病態進行を抑制あるいは軽減を図ります。

また、心臓の状態を説明しての在宅動作指導を実施しています。

◆がんリハビリテーション

がん患者さんの術後の後遺症や治療の副作用、合併症等を注視しながら体力維持・強化を目的とし、持久力の強化訓練等を実施しています。当院は『周術期リハビリテーション』と『緩和リハビリテーション』があります。

作業療法士

富中真悟



がんリハビリについて

リハビリテーション室で何か貢献したいという気持ちがあり、講習や準備を重ね、やっと10年前にチームを立ち上げることが出来ました。がんリハビリと聞くと、“緩和”目的と思われるかもしれませんが、もちろん緩和的リハビリも行いますが、がんの手術をした後に在宅生活するための体力づくり等を行っています。「術後間もないうちにリハビリを行っているのか。」と思われる患者さんもいらっしゃいますので、十分理解していただけるような説明を心がけるとともに、主治医や看護師と情報共有を行いながらサポートいたします。

がんリハビリの今後

現在がんは、手術や治療を行うことで、日常生活に戻ることができます。しかし、発症前と同じ生活状態に戻ることが難しいことも多く、新たな悩みが発生してしまう患者さんはたくさんいらっしゃいます。そこで作業療法士（Occupational Therapist（略して「OT」。Occupational=活動、作業、業務等を意味します。））の出番です。患者さんが今後どのように生活をされたいのか、どんなことを大切に思っているのかをお聴きしその思いを叶えるためにサポートすることが我々の仕事です。

退院後の生活に不安をお持ちの患者さんのお役に立てることが今の目標です。

NICU について

当院ではNICU（※）病棟でもリハビリに取り組んでいます。主治医からのリハビリの指示により早産児や低出生体重児に対して成長発達を促すため、主治医や看護師の協力のもと行っています。

※NICU・・・新生児集中治療管理室

言語聴覚士

三村寛子



嚥下リハビリについて

当院では「食べられない」「飲み込めない」等の摂食・嚥下障害をお持ちの患者さんのために、医師、看護師、栄養士、薬剤師、言語聴覚士等の多職種が参加する嚥下チームで関わっています。摂食・嚥下障害の年齢層は幅広く、小児から、高齢者までとさまざまです。小児は、その後の成長に関わってくることであります。また高齢者にとっては、口から食事が摂れるということが転院や退院の重要なポイントとなっています。

食べることの重要性

食べることは、単に「必要な栄養を取り入れる」というだけではなく、食べることにより美味しいと感じたり、家族や大切な人と一緒に楽しい時間を過ごせる等、日々の生活においてとても重要な意味があると考えます。このように生活の大切な部分である「食べる」ことをサポートできることは、言語聴覚士としてもやりがいを感じ、今後もそのことを大事にしながら患者さんと関わっていきたいと思っています。



これから期待される若手スタッフ2名の仕事に対する思い等を紹介します。



1年目 理学療法士 渥美雄登

理学療法士を目指すきっかけ

小学2年生からテニスをしていました。中学2年生のときに腰を痛め、1年ほど理学療法士の方にお世話になったことがあります。テニスはできなくなってしまいましたが、当時の辛かったとき親身になって支えてもらったことで、当時の自分と同じように苦しむ患者さんの役に立ちたいと思い理学療法士をめざしました。

仕事を始めて感じること

想像以上に忙しい毎日ですが、なんとか頑張っています。仕事をしていて自分の知識不足を感じることも多いですが、自分で勉強するとともに先輩方に相談し、アドバイスをいただきながら取り組んでいます。リハビリテーション室の雰囲気は非常によく、先輩方への質問や相談もとてもしやすく助かっています。

今の目標

目の前にあることを1つ1つ一生懸命に頑張ろうと思っています。上手いかないことも多くありますが、リハビリを実施して患者さんに喜んでもらえたり、楽しんでいただけるととても嬉しく、やる気にもつながります。患者さんに寄り添ったリハビリを実施できるように頑張っていきたいです。

2年目 理学療法士 明田幸大

理学療法士を目指すきっかけ

実は、高校生になるまでやりたいと思えることが見つかっていませんでした。部活動の野球を通して、高校時代に体の使い方を学ぶ機会があったことやケガにより通院したことで、体に関わる職業に興味を持ったことがきっかけです。今となってはやりがいもあり、責任もある大事な仕事だと感じています。

仕事を始めて感じること

仕事を始める前も実習として患者さんと触れ合う機会がありましたが、当時はまだ学生気分でした。実際働くと、想像よりも責任が大きいことを痛感しています。自分のリハビリで、患者さんの状態や離床のスピード等が変わるため、患者さんの役に立つためにはもっと勉強や経験が必要です。1年目はとにかくがむしゃらに頑張っていたのですが、2年目からは必要な知識を身につける等して、スキル向上に努めていきたいです。

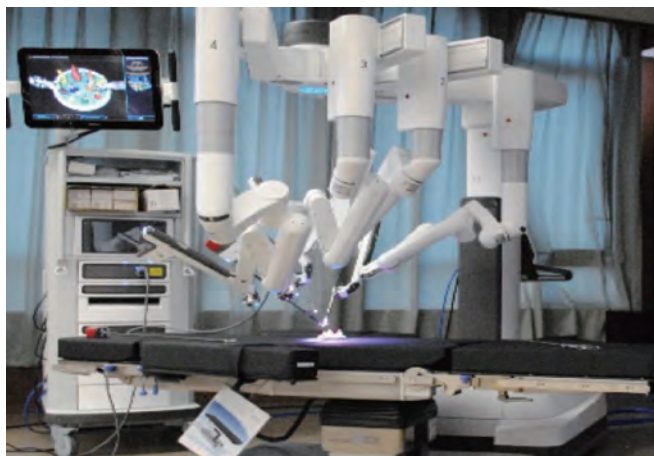
今の目標

当院は急性期の病院のため、入院は治療がメインです。そのため全身状態や治療が落ち着いた患者さんは、リハビリがメインの回復期病院へ退院または転院していただくことになります。中には転院等の際に別れを惜しんでくださる患者さんもいらっしゃいます。当然のことですが、リハビリを行う際の主役は患者さんです。患者さんにやる気を出していただくために接し方にはとても気をつけているつもりです。そんな思いが伝わったと実感できる瞬間です。まだまだ技術的にも学ぶことがたくさんありますが、これからも気持ちの込められたリハビリを行い患者さんとの関係を作っていきたいです。

リハビリテーション室スタッフ ▶



第14回 三重県立総合医療センター がん市民公開講座



当院は、「三重県がん診療拠点病院」として、手術、化学療法、放射線療法を効果的に組み合わせた集学的治療や緩和ケアチームによる緩和医療を行っています。

本公演会では、当院ロボット手術センター長、副センター長が手術支援ロボット「ダヴィンチ」についてご説明させていただきます。

テーマ ロボット手術
患者さんの負担軽減
～最新の低侵襲性手術～

開催日時 令和4年3月12日(土) 13:30～15:00

定員 80名(先着順)

申込方法 氏名、電話番号、医療関係者の方は職種と医療機関名をご記入のうえ、申込専用E-mailアドレスwebinar@mie-gmc.jp宛までお申し込みください。

●開催の挨拶 13:30～13:35

新保 秀人

三重県立総合医療センター
理事長兼院長



●講演 13:40～14:00

「大腸がん」(20分程度)

講師 尾嶋 英紀

三重県立総合医療センター
ロボット手術センター長



●講演 14:05～14:25

「肺がん」(20分程度)

講師 鈴木 仁之

三重県立総合医療センター
ロボット手術センター副センター長



●講演 14:30～14:50

「前立腺がん」(20分程度)

講師 神田 英輝

三重県立総合医療センター
ロボット手術センター副センター長



●閉会の挨拶 14:55～15:00

毛利 靖彦

三重県立総合医療センター
副院長



三重県立総合医療センター

お問い合わせ

TEL:059-345-2321 FAX:059-347-3500 E-mail:webinar@mie-gmc.jp
事務局 企画部 経営企画課 担当:山本



休診のお知らせ

令和4年2月1日現在

耳鼻咽喉科

■ 2月24日(木)
■ 2月25日(金)
■ 3月7日(月)

精神科

■ 3月9日(水)

皮膚科

■ 3月18日(金)
■ 3月29日(火)
■ 3月30日(水)

眼科

■ 4月11日(月)



三重県立総合医療センター
<https://www.mie-gmc.jp/>

検索

都合により変更する場合がありますので、最新の情報をホームページ・お電話・メールにてご確認ください。



外来診療医師担当表

令和4年2月1日(土)現在

診療科		月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
総合内科	初診	牧野 / 森谷	西 田	山 田	小 林	柴 田
	初診・再診	感染症外来 白木	血液・血栓外来 和田	白 木	消化器内科(再診) 白木	循環器内科(再診) 牧野
消化器内科	初診	森谷 / 菅	井 上	山中 / 水谷	西浦 / 島田	川崎 / 中澤
	再診	井 上	森 谷	菅	山 中	西 浦
	再診	島 田	水 谷	川 崎	中 嶋	腫瘍内科 齋藤
循環器内科	初診	増 田	加 藤	増 田	林	岡 崎
	再診	加 藤	中 澤	谷 垣 内	牧 野	増 田
	再診					林 / 山田
※総合内科月曜日の1診は、牧野が第1週・第3週・第5週を担当し、森谷が第2週・第4週を担当します。 ※消化器内科月曜日の3診は、森谷が第1週・第3週・第5週を担当し、菅が第2週・第4週を担当します。 ※消化器内科水曜日の3診は、山中が第1週・第3週・第5週を担当し、水谷が第2週・第4週を担当します。 ※消化器内科木曜日の3診は、西浦が第1週・第3週・第5週を担当し、島田が第2週・第4週を担当します。 ※消化器内科金曜日の3診は、川崎が第1週・第3週・第5週を担当し、中澤が第2週・第4週を担当します。						
呼吸器センター	初診	吉田 (紹介診)	吉田 (紹介診)	藤 原	寺 島	児 玉*
	再診	後藤 (初診)	伊藤 (初診)	児 玉	伊 藤	三 木
		寺 島		後 藤	吉 田	藤 原
※緩和ケア外来希望の方は金曜日9時～11時 (完全予約制)						
消化器・一般外科		1診 / 毛 利	1診 / 担当医	1診 / 尾 嶋	1診 / 毛 利	1診(午前) / 担当医
		2診 / 尾 嶋		2診 / 水 越	2診 / 辻 浦	
		3診 / 伊 藤		家城(1・3・5週) / 葛村(2・4週)		
小児外科			2診 / 内 田		内田(14:00～)	
乳腺外科		予約診 / 野呂 (1・3週) / 山下 (2・4・5週)	3診 / 山 下		3診 / 山 下	2診 / 野 呂
					予約診 / 乳腺外来(野呂)	予約診 / 乳腺外来(山下)
形成外科				2診 / 粗野 / 石浦		
※第1週目は休診です。 ※粗野が最終週以外を担当し、石浦が最終週を担当します。						
心臓血管外科 / 呼吸器外科		1診 / 近 藤	1診 / 新 保	1診 / 澤 田		1診 / 澤 田
		2診 / 庄 村	2診 / 鈴 木			2診 / 田 邊
脳神経外科		1診 / 黒 田	1診 / 後 藤	1診 / 寺 島	予約診 / 担当医	1診 / 梅 田
		2診 / 亀 井				2診 / 亀 井
						午後 予約制 / 脊椎脊髄外来
脳神経内科		1診 / 伊 藤	1診 / 伊 藤	1診 / 掃部 / 伊藤	1診 / 堀江 / 柴田	1診 / 掃 部
			2診 / 掃 部	2診 / 西 垣	2診 / 柴田 / 堀江	2診 / 伊 藤
※1診が初診、2診が予約診です。 ※水曜日の1診は、掃部が第1週・第3週・第5週を担当し、伊藤が第2週・第4週を担当します。 ※木曜日の1診は、堀江が第1週・第3週・第5週を担当し、柴田が第2週・第4週を担当します。 ※木曜日の2診は、柴田が第1週・第3週・第5週を担当し、堀江が第2週・第4週を担当します。						
小児科		1診 / 杉 山	1診 / 西 森	予約 / 太 田	1診 / 太 田	1診 / 杉 山
		2診 / 山 口	2診 / 太 田	予約 / 杉 山	2診 / 西 森	2診 / 鈴 木
		3診 / 小 林	3診 / 山 口	予約 / 大 森	3診 / 大 森	3診 / 山 口
		4診 / 伊藤(道)	4診 / 小 林	時間外・紹介 / 小林 / 西森 / 鈴木		4診 / 山 下
産婦人科		1診(午前) / 大里(初診)				
		1診(午後) / 母体胎児診断	1診 / 浪 崎 (初診)	1診 / 古 橋 (初診)	1診 / 竹 内 (初診)	1診 / 河 村
		2診 / 古 橋	2診 / 朝 倉	2診 / 河 村	2診(午前) / 朝倉 2診(午後) / 1ヶ月検診	2診 / 浪 崎
		3診 / 南	3診 / 秋 山	3診 / 竹 内	3診 / たんぼぼ (助産師) 外来	3診 / 朝 倉
整形外科		4診 / たんぼぼ (助産師) 外来			4診 / リンパ浮腫ケア外来	4診(午前) / 担当医
		1診(午前) / 北尾(紹介 膝、肩)	1診(午前) / 北尾(膝関節外来(再診))		1診(午前) / 奥山(再診)	1診(午前) / 奥山(紹介、初診)
			1診(午後) / 北尾(再診)		1診(午後) 奥山(再診)	
		2診(午前) / 柿本(紹介、初診)	2診(午前) / 服部佳生(紹介、初診)		2診(午前) / 服部徹也(紹介、初診)	2診(午前) / 種村(リハ、初診)
皮膚科			2診(午後) / 柿本(再診)		2診(午後) 服部徹也(再診)	
		3診(午前) / 服部徹也(リハ、再診)	3診(午前) / 柿本(リハ、再診)		3診(午前) / 服部佳生(リハ、再診)	
			3診(午後) / 種村(再診) 13:30～		3診(午後) 服部佳生(再診)	
		1診 / 中西(真)	1診 / 加 古	1診 / 加 古	1診 / 中西(丈)	1診 / 加 古
泌尿器科			午後 / 褥瘡回診	午後 / 手術		
		1診 / 神 田	予約診 / 堀(男性外来)	1診 / 渡 邊	1診 / 松 浦	1診 / 筏 井
		予約診 / 松 浦		予約診 / 神 田	予約診 / 筏 井	予約診 / 渡 邊
		予約診 / 渡 邊		予約診 / 筏 井		予約診 / 松 浦
※火曜日(男性外来)は、第1週、第3週、第5週のみ						
眼科		1診 / 佐 宗	1診 / 佐宗(午後休診)	1診 / 佐 宗	1診 / 佐 宗	1診 / 佐 宗
耳鼻いんこう科		1診 / 鈴 村	1診 / 鈴 村	1診 / 鈴 村	1診 / 鈴 村	1診 / 鈴 村
精神科		1診 / 山 下	1診 / 山 下	1診 / 山 下	1診 / 山 下	1診 / 山 下
放射線科		1診 / 間 瀬	1診 / 野 本	1診 / 高 田	1診 / 佐 貫	1診 / 南 平

※都合により、変更する場合がありますので、最新の情報をホームページ・お電話・メールにてご確認ください。

地方独立行政法人
三重県立総合医療センター
MIE PREFECTURAL GENERAL MEDICAL CENTER
TEL.059-345-2321(代表)

一 三重県立総合医療センターの基本理念・基本方針

» 基本理念

1. 救命救急、高度、特殊医療等を提供することにより、県の医療水準の向上に貢献します。
2. 安全・安心で互いにささえあう社会の実現に向けて医療面から貢献します。

» 基本方針

1. 患者の皆様の権利を尊重し、信頼と満足の得られるチーム医療を提供します。
2. 県の基幹病院として医療水準の向上に努めるとともに、医療人材の育成に貢献します。
3. 県内医療機関との連携を強化し、地域医療の充実に努めます。
4. 職場環境を改善し、職員のモチベーションの向上に努めます。
5. 責任と権限を明確にした自律的・自主的な経営を行います。

一 臨床研修基本理念・基本方針

» 臨床研修基本理念

「人の痛みがわかり、相手の立場で考えられる」など医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学や医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、日常診療で頻繁に関わる病気や病態に適切に対応できるよう、医師としての基本的な診療能力(態度、技能、知識)を身につける。

» 臨床研修基本方針

1. 患者及び家族とのコミュニケーション能力を習得し、医師としての人格を涵養する。
2. 全人的医療を実践することができるプライマリ・ケアの基本的診療能力を習得する。
3. チーム医療の一員としての役割を理解し、協調性をもってチーム医療を実践する。
4. 医療安全を理解し、安全な医療を遂行する能力を身につける。
5. 医療人としての倫理観を養成する。

編集：地方独立行政法人 三重県立総合医療センター広報紙編集委員会 令和4年2月／発行号
〒510-8561 三重県四日市市大字日永 5450-132
TEL. (059) 345-2321(代表) E-mail. sogohos@mie-gmc.jp URL. <https://www.mie-gmc.jp/>
表紙：リハビリテーション室 写真 [令和3年11月26日(金)撮影]

ホームページ



交通のご案内



三重県立総合医療センター

<https://www.mie-gmc.jp/>

検索